

## 第1章

## 侘び茶の誕生から完成へ

侘び住まいに始まる茶の湯

珠光と宗珠 6

茶の湯への理想郷半ばで終えた人生

武野紹鷗 12

政策に隠れてしまった茶の湯への本心

織田信長 18

楽しみを追求した茶人

豊臣秀吉 26

天下人の変遷とともに成熟し、大成した侘び茶人

千利休 34

茶の湯コラム

職方をめぐるあれこれ 42

## 第2章

## 茶の湯百花繚乱

穏やかに、涼やかに

千少庵 44

利休の見込み通りに大成した大名茶人

古田織部 50

和漢古典のエキスパート

小堀遠州 58

孫として、子として、父として

千宗旦 66

ドラマになる大名茶人

細川三斎 74

京暮らしを謳歌した大名の元嫡男

金森宗和 80

大名に残った千道安からの系譜

片桐石州 88

茶の湯コラム

国宝茶室「如庵」の特徴と変遷 96

## 第3章

## 次の時代の息吹と歩み

金沢での運命的な出会い

仙叟宗室と大樋家、宮崎家 98

逸話多き千宗旦の高弟

山田宗徧 106

利休像のクリエイター

立花実山 114

知の巨人の探求、心と一大コレクション

近衛予楽院 120

転換期に現れた名兄弟

如心斎天然と又玄斎一燈 126

近代に向けたエポックパーソン

松平不味 134

言葉だけで捉えきれない茶人

井伊直弼 142

茶の湯コラム

近代以降に姿を現す流派と武家茶道 150

## 第4章

## 新たな担い手の登場

時代に応えた家元

玄々斎精中 152

近代の今太閤ならぬ今利休

益田鈍翁 160

## 第1章

# 侘び茶の誕生から 完成へ

茶の湯の歴史はいつがはじまりなのでしょう。建保2年(1214)、中国で臨済禅を学んだ栄西が、抹茶とともに『喫茶養生記』を鎌倉幕府第3代将軍・源実朝に献上したとする『吾妻鏡』の記述は重要なタームです。ただ、それは薬として茶の効能を説いた話です。

では、茶の湯に必要な条件は一体何でしょう。お茶を飲む室内に全く茶道具が無いのは稀でしょうし、もしそのような場に出会わしたなら違和感を覚える筈です。ただ抹茶を飲むだけでは茶の湯とはいえないのです。茶の湯の成立要件は先学の指摘通り、1.お茶を頂くための部屋にお茶を飲むために訪れる、2.その空間に点茶道具が飾ってある、3.その飾られた道具を用いて目の前で点てられたお茶を頂く、となるだろうと思います。

この章では茶の湯の成立条件が出揃い、侘び茶が大成されるまでの茶人たちを見ていきます。その姿はもしかすると、思っていたものと少し違うかも知れません。

時代の名記録者

難波に咲いた二輪の花

新たな時代に前面に出た担い手

ニユースタイルを提示した数寄者

昭和を照らした、真心茶人

高橋箒庵

平瀬露香と藤田香雪

近代の茶の湯と女性

小林逸翁

松下幸之助

登場人物 & 三千家と千家十職の歴代年表

茶道具別索引

人名索引

もっと知りたい方のために

あとがき

イラスト/オクモリユキエ

ブックデザイン/久都間ひろみ(くつまま)

222 220 214 212 202

196 188 182 174 168